

第3回 世田谷区介護サービスネットワーク運営委員会

実施日時 令和8年6月16日 18:30~19:30

実施方法 Zoom

参加者 徳永、磯崎、山口、柴田、丸茂、丸山、佐伯、上保、水口、桑谷、後藤、富樫
(区) 介護保険課事業者支援担当 安田係長 木村
(研修センター) 木本センター長、枝係長、村木

1. 世田谷区より連絡・情報提供(安田係長)

東京都補助事業および安全対策に関する情報提供

埼玉県川口市でケアマネジャーが利用者家族に殺害された事案を受け、訪問介護等の安全対策に関する補助事業等について情報提供

【国の情報】

- 国からの通知(介護保険最新情報)において、困難事例のケースワーク対応については、警察や行政との連携も視野に入れて対応するよう示されている。

【東京都の情報】(補助事業の概要)

東京都が令和7年度に実施し、令和8年度も継続して受付を開始する補助事業。

- 防犯機器導入支援補助:防犯ベルやボイスレコーダー等の購入に対し、上限10万円(補助率1/2)を補助。
- 訪問介護員等同行支援補助:カスタマーハラスメント(カスハラ)対応等で複数人での訪問が必要な事例に対し、1時間あたり1,700円を上限(補助率3/4)に実績に応じて補助。

対象事業所:訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、夜間対応型訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援。

※同行支援の2人目については、必ずしも介護専門職である必要はなく、安全確保(ボディガード的役割)を目的とした人材の同行でも対象になり得る。

(参照)<https://tokyo-fukushi-kaigo-customer-harassment.pages.dev/>

【世田谷区(区)の情報】

- 世田谷区として、隙間時間を活用した「スポットワーク」の補助事業を今後実施する予定

【質疑応答】

質問1 徳永代表

昨年度における東京都の本補助事業の実績はどのようになっているか？

回答:安田課長

東京都側が実績の詳細を開示していないため不明だが、実際にはそれほど多くはないのではないかと想定。人手不足が深刻な事業所にとっては、同行者の確保自体が高すぎるハードルとなり、活用しづらいという現実的な課題がある。

【その他意見等】

- 徳永代表

川口市の事案は現場に大きな動揺を与えている。特に介護・ケアマネジメントの現場は女性従

事者の割合が高いため、補助金の活用もさることながら、それ以前の根本的な安全確保のあり方の見直しが必要

- 富樫氏

組織内でも事件を受けて情報共有を行ったが、防犯ベルなどの機器は実用性に欠けるという意見もあり、効果的な対策を見出すのが難しい。「異変に早く気づき、早く動く」という基本的な周知徹底にとどまっているのが現状

2. 研修センターからの報告および外部要望への対応

- 直近の予定

- 6月23日：介護人材対策推進協議会を開催。今回より株式会社 Gen.の柴田氏が新委員に就任し、各団体の課題や取り組みについて議論する。
- 6月25日：世田谷区介護従事者等の合同入職式・永年勤続表彰式を開催（木本センター長、徳永氏が出席予定）。

- 区議会議員からのアンケート・要望聞き取りへの対応

- 世田谷区生活者ネットワークの関口区議より、秋に実施する区への予算要望聞き取りに向けたアンケート調査への協力依頼があった。
障害者団体に比べて介護関係団体からのまとまった声が届きにくいいため、ネットワークとしての要望があれば提出してほしいとのこと。
※磯崎副代表が窓口になることが決定。

【意見のまとめ】

- 徳永氏代表

立憲民主党系など他の会派からも同様の聞き取り依頼が届いている。代表・副代表間で調整のうえ、昨年度提出した提言なども活用しながら、訪問介護の現場環境や人材確保の困難さといった課題を効果的に発信していきたい。

- 山口副代表

7月7日(火)16:15～17:15に、世田谷区社会保障推進協議会と共同で「区長懇談会」が開催される。昨年共同で提出した「週40時間以上勤務する介護職への1万円助成」などの継続審議案件について、区長へ直接要望を訴える予定(持ち時間3分)。当ネットワークから2名ほどの出席枠があるため、徳永氏のほかにもう1名、個別に参加を募りたい。

3. 令和8年度 通常総会について

- 開催概要

- 日時：6月26日(金)18:30 開始(関係者・運営委員は18:00 集合・準備開始)
- 場所：世田谷区福祉人材育成研修センター 研修室 A(定員84名)
- ※オンライン(Zoom)とのハイブリッド開催。

- 審議議案

- 第1号議案：令和7年度 事業報告および決算について(監査報告含む)
 - 金利上昇に伴い、受取利息が大幅に増加(決算：約67万円)。
 - Zoom 使用料等の通信費やホームページ保守費の増加はあったものの、全体支出を約30万円に抑えたため、次期繰越金は約588万円となった。
- 第2号議案：令和8年度 事業計画および予算案について
 - 今年度も会員拡大と参加のしやすさを最優先し、会費無償化(ゼロ円)を継続。

- 活動目標をシンプルにするため、今年度は重点目標を以下の 3 項目にスリム化する。
 1. 報酬改定対応と物価高・人件費高騰に対する運営支援
 2. 人材確保と定着の強力な推進
 3. 地域・行政と一体になった実効性のある災害対策(BCP)の具体化
- 第 3 号議案:令和 8 年度 運営委員の選任について
 - 一部の運営委員(サピエンスヘルパーセンターの塚越氏から市川氏への変更など)の改選を行う。
- 当日資料の扱い
 - 会場出席者は各自で資料を印刷して持参することを推奨(事務局でも予備は用意)。
安田係長報告分の資料はすでに区のホームページに掲載されているため、当日は画面共有とデータ、紙資料を併用して進行する。

4. 会員の声の集約に関する意見交換

総会および外部からの要望聞き取りに関連し、ネットワーク内における意見集約のあり方について議論が行われた。

【質疑応答】

質問2 富樫氏

各種議員からの聞き取りや、区の委員会にネットワークとして参加するにあたり、一般会員(事業者)の声をどのように集約しているか？

回答 徳永氏

公式ホームページに問い合わせフォームは設けているものの、個別の声をシステムチックに吸い上げる仕組みは確立できていない。集約が不十分なまま一部の意見を全体の意見として発信することには慎重であったという経緯もあり。現状は、行政の審議会などの人選において、訪問・通所のバランスや実務状況を考慮し、代表・副代表間で調整しながら対応。

【意見のまとめ】

● 富樫氏

東京都の介護関係団体の総会でも、会員減少による組織の弱体化が大きな課題として挙げられていた。アンケート調査を行っても回答が極めて少ないという厳しい現状はあるが、会員に対して「声を聴く姿勢」を示し、入会しているメリットを打ち出す動きを少しずつでも作っていくべきではないか。

● 徳永氏代表

当ネットワークは、法人単位で構成される「事業者団体」ではなく、個々の現場が集まる「事業所連絡会」という位置づけである。そのため、事業所ごとに抱える事情や意見が異なり、意見を一つに集約して提言を行うことには構造的な難しさがある。しかし、人手不足などの共通する重大な課題については、幹事会や部会を通じてしっかりと声を拾い上げ、発信していきたい。

次回 運営委員会 7月21日(火) 18:30～